

佐賀市 24 歴史探訪

えとうしんべい れんじょうじ 江藤新平と蓮成寺

江藤新平は、明治政府で文部大輔(次官)、左院副議長などを歴任し、明治5(1872)年には初代司法卿として、近代国家にふさわしい司法制度の整備に尽力した人です。明治6年4月には参議となり、明治新政府の運営に参加しましたが、「十月の政変」で西郷隆盛らと共に職を辞し、明治7年2月、佐賀藩士族に擁立され、征韓党首として、佐賀の役で政府軍と戦って敗れました。

現在、江藤新平の墓は、本行寺にありますが、初めは鍋島町の蓮成寺に葬られました。このときのことを、江藤新平の孫にあたる江藤冬雄氏著『南白江藤新平実伝』では、「…家永、浦、中村の3人に協力、南白の遺骸を棺に納め、佐賀城の北西約1里、江藤家の菩提寺、鍋島村木の角在、蓮成寺に運び、山門を潜ってすぐ左手、現在、三十六番神(三十番神の誤記か)を祀ってある所に鄭重に葬った。」とあります。

また、『佐賀市史第3巻』には、人々の江藤新平に対する信仰があったと記されています。その内容を明治期の文書に見てみると「…亡江藤新平ノ霊ニ祈ル時ハ諸病ヲ治シ、…中略…亡江藤新平ノ墓所ハ佐賀ヨリ一里隔ル木ノ津野(角)村蓮成寺ニアリ、素ヨリ寂寥タル僻地ノ由、然ルニ連日多人数参詣スルコト故ニ商人ハ寺内ニ菓子或ハ果物ノ店ヲ出シ寺中俄カニ繁盛セリ…」(フリガナを除き原文のとおり)とあります。

本行寺に改葬されたのは、明治14(1881)年のことで、墓碑銘は副島種臣によるものです。墓碑には「明治十有四年五月建 江藤新平君墓 菅原種臣書」と刻まれています。

人々の「敬慕の念」が、信仰や伝説を形成していくことがあります。当時の佐賀の人たちは江藤新平の御霊に何を期待していたのでしょうか。

一口メモ

江藤冬雄氏の記述には、「新平が最初に葬られたところは、『三十番神』のお堂があったところ」とありますが、蓮成寺の御住職によりますと、『三十番神』のお堂は、この寺に古くからあったもので、その位置に新平の墓を建てたとは考えがたい。(1)『三十番神』のお堂に仮安置(2)本堂西側の江藤家墓所に埋葬(3)明治14年に本行寺に改葬という順序ではないか。」とのことです。



▲蓮成寺



▲蓮成寺 三十番神堂



▲本行寺
江藤新平の墓



▲本行寺